

「近頃の若者は、」という言葉を聞くと、自分達の若いころはどうであったらうかと自問自答してみる。人の本質は多少の時代経過ではたいして変わらないのではないかと思っているからで、違う部分はその時の環境によるものが大である。その時の環境という事を考えるとそれは我々大人の責任ではないのかと考えると「近ごろの若者は」とは気軽に批判できない。

昔はだれもが我慢するという環境があつて忍耐を学んだ。でも今の若者の環境はどうだろう。色々便利になりすぎて昔よりは我慢する事も少なくなつたのではないか。昨今の若者の事件もそんな事の延長線上に有るような気がしてならない。

今では二十四時間営業しているコンビニがあり何時でも気軽に物が買える。昔なら学校に行く支度も前もつて用意しておかないとその日の朝は間に合わず母親に叱られたものだが、今では当日の朝でも間に合うから平気でのんきにしている。何時でも多少の事は間に合うし困る事もない。これでは考える力も弱くなる。

携帯電話もそうだ。直接友達に繋がるからいつもの調子で時間も気にせず喋っている。

昔は電話をかける時はよほどの用で、なるべく要件を手短かに、掛ける時間帯も気にしたものだ。

また、最初に出る人は大人と決まっていたので失礼のないように言葉を選びドキドキしながらかけたものだ。そして、そこで礼儀を学んだり常識的な部分も身につけたのだと思う。

子ども達の登下校の様子も変わった。雨が降っても雪が降ってもひたすら歩いて通つたものだが近頃は違う。車での送り迎えが多いのを目にする。

一人一台という車社会に加え親も余裕が出てきたのだろうがあまりにも過保護に見えるのは私だけだろうか。登下校時の送迎の車の乗り降りや渋滞にヒヤツとする光景を何度か見た。親も子も忙しい忙しいと何かにせかされているようにも見える。

「かんなんなまじ艱難汝を玉にす、なんて言葉が有つた時代とは違うよ」と言われそうだが、やはり苦勞を経験した人には敵わない様な気がする。

今の子ども達には昔とは違つた意味での苦勞も有るだろうが時には親もじつと我慢して苦勞する環境を残してもらいたい。

でなければ、今の便利さも有難味がなくなる。



毎月第1日曜日は「家庭の日」

毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第249回

「時には苦勞を」

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄